

まとい



編集 桑名市消防本部予防課
発行 桑名防火協会
桑名危険物安全協会
桑名市大字江場7番地
☎(FAX) 0594-24-0135
URL <http://www.kuwabou.info>



▲令和7年桑名市消防出初式一斉放水の様子
令和7年1月19日(日) 桑名市太一丸地先 揖斐川右岸「住吉浦休憩施設」付近

春の火災予防運動が はじまります 3月1日(土)～3月7日(金)

令和7年3月1日から3月7日まで「令和7年春季全国火災予防運動」が展開されます。
2月から3月は空気が乾燥し風の強い日も多く、火災が発生しやすい時季を迎えるに
当たり、火災予防思想の一層の普及を図ることで、火災の発生を防止し、高齢者を中心
とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的に毎年実施され
ています。みなさんも、今一度、ご家庭の防火対策を確認したり、住宅用火災警報器の作
動確認などを行いましょう。



火災概況



令和6年中の火災概要

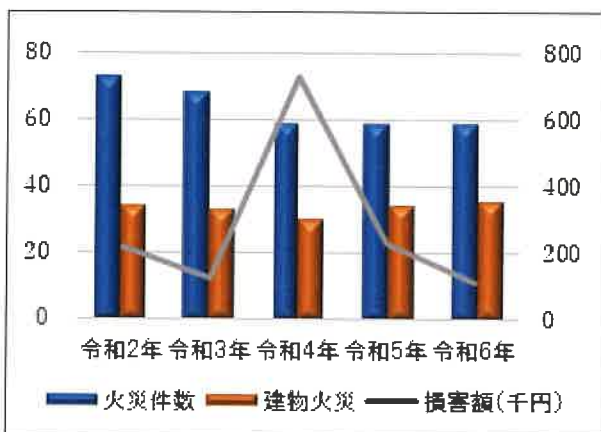
令和6年の桑名市消防本部管内(桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町)の火災件数は59件でした。火災種別の内訳は、建物火災35件、林野火災1件、車両火災6件、その他火災(枯草などの火災)17件です。令和5年と比較すると建物火災が1件増加し、過去5年で最多となりました。

建物火災の損害額は2年連続で減少しており、調査中のものを含めても過去5年間で最少となる見込みです。

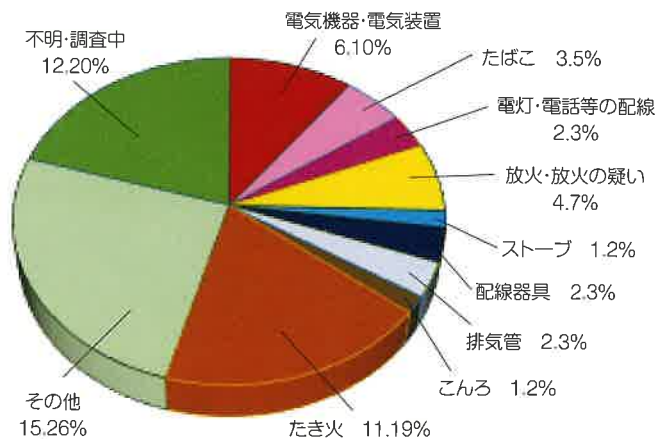
死者数は令和5年の6名から1名へ大幅に減少しました。負傷者数も7名と過去5年間の平均(9.8人)を下回り、比較的被害の少ない年となりました。

出火原因の第1位は令和5年と同じくたき火で、11件とほぼ横ばいの傾向が続いています。一方、電気機器による火災は1件から6件へ大幅に増加しました。また、12月に発生した調査中の2件も電気機器が原因の可能性があり、建物火災が減少しない要因と考えられます。

火災件数と損害額



出火原因



★電気機器とリチウムイオン電池の安全な取り扱いについて

近年、リチウムイオン電池に起因する火災が全国で多く発生しており、建物が全焼するような深刻な被害も報告されています。そこで、改めてリチウムイオン電池を含む電気機器の安全な取り扱いについて確認しましょう。

1. リチウムイオン電池の安全性について

リチウムイオン電池は、他の電池に比べて大きな電力を蓄えることができますが、誤った使用により発火や発煙のリスクがあります。携帯電話やパソコンのバッテリーが故障し、事故につながった事例もあります。基本的に安全装置が取り付けられていますが、正しい使い方を知り、注意深く扱うことが重要です。

2. リチウムイオン電池の正しい廃棄方法

リチウムイオン電池を廃棄する際には、産業廃棄物として適切に処分する必要があります。廃棄方法は製造メーカーごとに異なるため、各メーカーに問い合わせることをおすすめします。必要に応じて、廃棄実績のある業者を紹介してもらえます。

3. 海外製品の注意点

日本国内で製造された電気機器は安全性が高いものが多いですが、海外製品の中には品質が低いものも含まれています。特に、インターネットで購入した製品には注意が必要です。また、正規品ではない充電器の使用は発火の危険性があるため、代替品の使用は避けましょう。

4. 日常の取り扱いでの注意点

リチウムイオン電池は、落下や踏みつけなどの衝撃により内部が破損し、使用していない状態でも発火することがあります。日常的に取り扱う際には、丁寧かつ慎重に扱うよう心がけてください。

安全な生活を守るためには、私たち一人ひとりの注意と適切な対応が欠かせません。ぜひ、これらのポイントを意識して日々の生活を安全・安心なものにしてください。



見て、聞いて、感じて 防火・防災フェアを開催!!

令和6年11月16日(土)イオンモール桑名において、【見て、聞いて、感じて「防火・防災フェア」inイオンモール桑名】を開催しました。

この催しは、市民の皆さんに対して、火災予防思想の普及と高揚を図り、住宅における火災の発生を防止することを目的として行われ、当日は、住宅火災の「逃げ遅れゼロ」に向けた消防本部の3本柱、①住宅用火災警報器の取付け・点検支援(無料)②住宅防火診断③住宅防火講習会などの取り組みもお知らせしました。

イベントは、消防、警察、自衛隊車両の展示、ミニ防火衣を着て記念撮影、防火・防災用品の展示、浸水体感VR体験、救急隊による救急活動披露、女性消防団による心肺蘇生法の実演・体験、住宅用火災警報器(取付・点検)支援の受付など様々な展示・体験を用意して行われ、当日は約2000人の来場者で賑わいました。また、火災予防啓発にはクイーン桑名、学生団員の方々にご協力をいただき、ゆめはまちゃんにも華を添えてもらいました。



貴重な文化財を火災等による災害から守ろう

★照源寺で防火訓練を実施

昭和24年1月26日に、法隆寺金堂から出火した火災によって、世界的な至宝と言われた金堂の壁十二面に描かれた仏画の大半が焼損しました。

このような被害から文化財を守るとともに、文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、昭和30年から、消防庁と文化庁の共唱により、法隆寺金堂が焼損した日である1月26日を「文化財防火デー」と定めて、文化財防火運動を全国で展開しています。

桑名市消防本部では、このような被害から文化財を守るために、毎年、関係部局と連携し防火訓練を実施しています。今年も、桑名市東方1308照源寺において、令和7年1月21日(火)午前10時から消防本部、地元消防団、照源寺住職及び檀家、市関係部局、近隣の幼稚園児など、約50名が参加して実施しました。



訓練の冒頭に、桑名市女性消防団の指導による消火器の取扱訓練を行い、続いて「本堂付近から出火」を想定し、住職及び檀家による初期消火、119番通報、在館者の避難誘導、文化財の持ち出し、はしご車、消防隊、消防団員による放水などの総合的な防火訓練を行いました。

照源寺には、三重県指定文化財の「松平定綱及びび一統之墓所」及び桑名市指定文化財に登録されている、「照源寺山門」、「絹本着色日本風景図」、「照源寺の夫婦マツ」などの貴重な文化財のほか、数多くの寺宝があります。

防火協会会員事業所紹介



豊田合成(株)
いなべ工場 工場長
富田 伸二郎

豊田合成(株)は、トヨタグループの一員として自動車部品のゴム・樹脂をベースに、ブレーキホース、ハンドル、エアバッグなどの自動車部品を製造しており、お客様の「安全・安心」を提供できる製品・サービスに心掛けています。

いなべ工場は、いなべ市藤原町に拠点を置き、トヨタ自動車の燃料電池自動車「MIRAI」に搭載されている高圧水素タンクを生産しています。

最近では、自動車向け以外の産業機械、船舶、鉄道などの実証実験も始まっており、脱炭素社会に向けた社会への価値提供に取り組んでおります。

当社の防火活動は、「絶対に火を出さない!」をスローガンとして、日々防火点検、防災訓練を実施しております。防災訓練では、雨天・降雪・暑熱・夜間の様々なシチュエーションでの訓練を実施する他、被災状況を確認するためのドローンを使った訓練なども取り入れて活動しています。

また、有事の際にも防災本部・各防災隊が、あらゆる状況においても的確な判断ができるように「レジリエント訓練」も実施しています。更に、大規模地震に備えた全社工場・拠点統一の「防火防災活動整備状況評価表」による課題抽出及び整備必

要項目を明確化して、計画的に是正を行い、レベルアップにつなげる活動もしています。また、従業員の防火防災意識向上のために、桑名市消防本部の「防火講習会」も開催して頂いております。

今後も桑名防火協会の一員として、地域の方々に安心して頂ける防火防災活動に精進し取り組んでまいります。



▲放水訓練の様子



▲レジリエント訓練の様子



▲応急処置訓練の様子



▲消防本部による防火講習会

住宅用火災警報器設置推進事業

桑名防火協会と桑名危険物安全協会は、高齢者の住宅火災による犠牲者ゼロを目指す取り組みとして、2市2町の高齢者宅防火診断時に住宅用火災警報器を訪問記念品として配布する、住宅用火災警報器設置推進事業を、令和6年秋季火災予防運動から始めました。

この度住宅用火災警報器100個を購入し、伊藤桑名市長に事業開始の報告を行いました。

毎年、住宅火災による死者は約900人で、そのうちの7割以上を高齢者が占めています。また、高齢者は、住宅用火災警報器の設置率も低いいため、火災の早期発見、逃げ遅れによる犠牲者ゼロを目指して両協会からの配布となります。

購入した住宅用火災警報器は、消防本部、社会福祉協議会、民生委員の協力のもと、秋季・春季火災予防運動期間中に実施する高齢者宅防火診断を利用して、未設置もしくは、交換が必要な場合に訪問記念品として配布し、消防本部の住宅用火災警報器取付支援に申し込んで取付となります。

住宅用火災警報器の配布は、永続して実施し高齢者の火災による犠牲の根絶を目指します。

